

地方創生関係交付金実施状況報告書

P2 地方創生関係交付金の概要

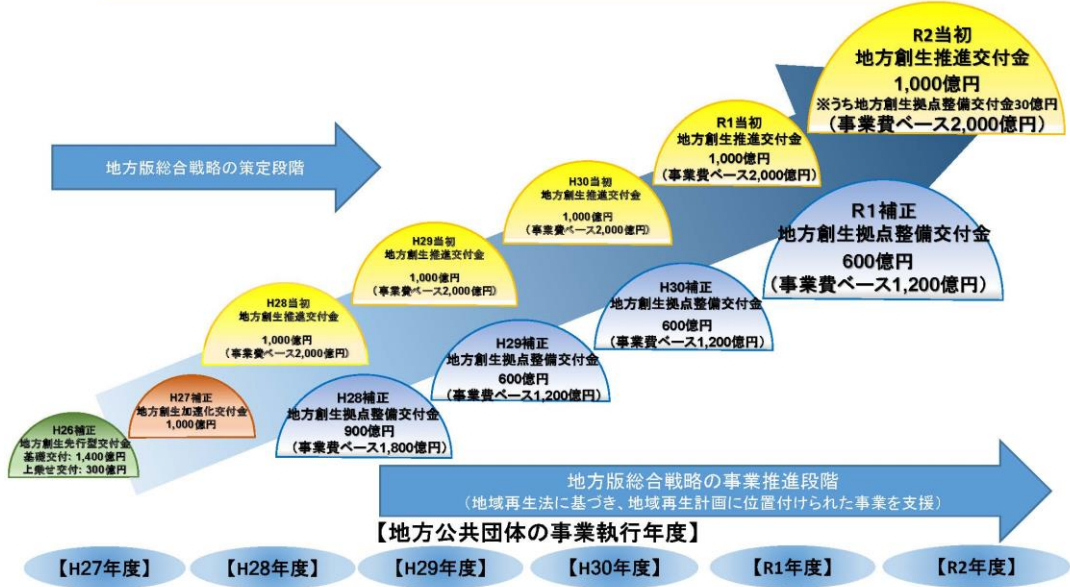
P3 花巻市まち・ひと・しごと創生総合戦略 重要業績評価指標(KPI)の達成度評価基準

P4～P6 地方創生関係交付金実施状況報告書(令和元年度)

地方創生関係交付金の概要

地方創生関係交付金の概要(イメージ)

- 自治体の自主的・主体的な取組で、先導的なものを支援
- KPIの設定とPDCAサイクルを組み込み、従来の「縦割り」事業を超えた取組を支援



出典: まち・ひと・しごと創生本部ホームページ

○花巻市における地方創生関係交付金の活用状況

	H27	H28	H29	H30	R1	R2
基本目標①						
地方創生推進交付金			→	→		
			→	→		
					→	
						→
地方創生拠点整備交付金 ※実線部: 整備期間 波線部: 効果検証期間				→	→	
				→	→	→
			→	→	→	→
基本目標②(交付金事業なし)						
基本目標③(交付金事業なし)						
基本目標④						
地方創生推進交付金					→	→

花巻市まち・ひと・しごと創生総合戦略 重要業績評価指標(KPI)の 達成度評価基準

1. 指標値に対する実績値の算出方法

$$\text{達成率(\%)} = \text{実績値} \div \text{目標値} \times 100$$

※小数点第一位を四捨五入願います。

2. 達成率の判定区分

a・・・100%以上 b・・・90%以上100%未満 c・・・90%未満

3. 達成度の判定

【A 達成できた】・・・KPIの達成率がすべて「a」

【B 概ね達成できた】・・・KPIの達成率の半数以上が「a」か「b」

【C やや達成できなかった】・・・KPIの達成率の半数未満が「a」か「b」

【D 達成できなかった】・・・KPIの達成率のすべてが「c」

資料3 地方創生推進交付金実施状況報告書(令和元年度)

No.	① 交付金の種類	② 交付対象事業の名称	③ 事業内容	④ R1事業実績	⑤ R1実績額(円)	⑥ 本事業における重要業績評価指標(KPI)					⑦ R1実績値	達成率(自動入力)	判定(自動入力)	⑧ 達成度	⑨ 実績値に対する評価(達成・未達成要因)	⑩ 事業の評価	担当課
						指標	指標値	目標値	単位	目標年月							
1	推進	エリアリノベーション事業(都市政策課)	<p>(背景)リノベーションまちづくりの手法、リノベーション手法を用いた事業開発や遊休不動産活用に係る多様な課題について、地域内の関係事業者や専門家間で十分に認識されていない状況である。</p> <p>(事業概要)遊休不動産と公共空間の効果的な活用を促進するエリアリノベーション事業</p> <p>(具体的な取組)まちなかのリノベーションビジネスを連鎖的に発生させるため、公共空間の高度活用について民間活力によって事業化し、両者に相乗効果をもたらす公民連携事業を生み出し、リノベまちづくり構想としてプロジェクト化する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○リノベーションまちづくり構想策定会議 開催回数5回 ○社会資源視察見学3回 ○エネルギー・建築不動産事業検討会 開催回数2回 ○エリアリノベーション検討会議 開催回数2回 延べ473人参加	18,677,300	指標①	リノベーション事業による新規雇用者(または起業者)	0	6	人	R3.3.31	16	267%	a	2017年度からのリノベーションスクール受講生の中で、昨年度時点では、起業準備の段階であったものが、今年度に事業を始める段階に至ったため。 事業オーナーの実事化に向けた検討(情報収集や事業者間調整、適正人材の採用など)のほか、不動産オーナーとの合意形成に時間を要したため。 リノベーションスクールや市の広報活動、各マスコミの取材等により、起業創業への機運が高まり、遊休不動産をリノベーションする店子事業者が増加したため。	(成果) ・まちづくりに意欲的な担い手がリノベーションスクールに参加後、起業・創業に向けた活動を進めており、実際に起業に至る案件が増加している。 (今後の方向性) ・事業化には、民間が自立的に取り組んでおり、現在検討中の案件(事業化検討案件:花月堂ビル、金野齒科跡、仲町通り長屋)については、1年程度の時間がかかることが予想されるが、実際に起業に至った後、継続的な事業となるためのフォローや不動産オーナーの理解促進が不足気味であることが今後の課題であるため、最終年度となる令和2年度においてはリノベーションの理念・手法について、広く分かりやすく提示する「リノベーションまちづくり構想」の策定を行い、リノベーション手法により起業を志す者や、不動産オーナーや事業オーナーへの周知を強化することにより、事業化への意識を醸成する。	都市政策課
指標②	遊休不動産のまちづくり活用件数	0	2	件	R3.3.31	0	0%	c	B								
指標③	リノベーション事業による新たな店子(事業者)数	0	2	件	R3.3.31	3	150%	a									
2-1	推進	いわてワインヒルズ推進事業(岩手県、定住推進課、大迫総合支所地域振興課)	<p>(背景) ・「日本ワイン」の原料となる国産ぶどうの確保に向けた動きが大手を中心に活発化している。 ・県内においてU・ターン者によるワイナリーの新規開業が増加する見込みである。</p> <p>(事業概要)ぶどう農家の生産意欲の向上や、新規就農を含めた担い手の確保、ワイナリー新規参入者の発掘・人材の確保・事業化までの支援等を通じて、醸造用ぶどうの一層の生産拡大を進めるとともに、地域が一体となった特色ある高品質なワインを生み出す取組を推進し、ワイン産業を核とした、中山間地域等の活性化を図る。 また、花巻地域と周辺市町村の観光や食などの地域資源と併せて、県産ワインの魅力をもっとPRすることで、ワイン産地としての認定度向上を図る。</p> <p>(具体的な取組) ・醸造技術習得支援事業補助金の交付 ・各種セミナーの開催 ・ワイナリー整備等事業補助金の交付 ・花巻ワインプロモーションイベントの開催 ・「ワインツーリズムいわて」の実施</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ワイン・シードル醸造志向者に対する支援 ①醸造技術習得支援事業補助金 のべ2名研修 ②各種セミナー 3回開催 のべ27名参加 ③ワイナリー整備等事業補助金 新規ワイナリー 0件 商品開発・委託醸造 2件 醸造設備導入 1件 直売所・試飲室整備 0件 販路開拓 4件 ・花巻ワインPRイベント「花巻の恵みフェア」7/8から都内飲食店10店舗で約1ヵ月実施。PR映像動画の制作。都内タクシー約2000台でPR映像を放映。 ・花巻ワインプロモーションイベントの開催7/23、東京都港区「ザコアキッチンスペース」、一般来場者数62名 ・「ワインツーリズムいわて2019」の実施8/31、9/1参加者数延べ360名 	13,043,667	指標①	県産ワインの製成数量	0	-	件	R3.3.31	-	-	-	(県の指標であるため評価せず) 一市町村別のワイン製成数量は把握不可(国税庁データは県単位での数値) (県の指標であるため評価せず) ※参考:花巻市内:0件 (今後の方向性) ・花巻市内で醸造されるワインの認知度は依然として低く、ワインプロモーションイベントやワインツーリズムの開催により、少しずつ認知度は高まっているが、さらなる認知度向上が課題である。そのため、岩手県との連携による「いわてワイン」の認知度向上の取組と合わせ、さらに認知度高めるためのPR手法を検討する。 ・これまでの事業により、ワイン・シードル醸造志向者によるワイナリーの設立や委託醸造への展開が進んだことから、今後は、委託醸造からワイナリーの開設に進むための設備投資や事業者による販路開拓の取組に対する補助事業を中心とした伴走支援を継続実施し、醸造志向者の安定的なワイナリー経営の確立を目指す。	定住推進課	
指標②	県内新設ワイナリー数	0	-	件	R3.3.31	-	-	-									
指標③																	
指標④																	
2-2	推進	いわてワインヒルズ推進事業(岩手県、定住推進課、大迫総合支所地域振興課)	<p>(背景) ・「日本ワイン」の原料となる国産ぶどうの確保に向けた動きが大手を中心に活発化している。 ・県内においてU・ターン者によるワイナリーの新規開業が増加する見込みである。</p> <p>(事業概要)ぶどう農家の生産意欲の向上や、新規就農を含めた担い手の確保、ワイナリー新規参入者の発掘・人材の確保・事業化までの支援等を通じて、醸造用ぶどうの一層の生産拡大を進めるとともに、地域が一体となった特色ある高品質なワインを生み出す取組を推進し、ワイン産業を核とした、中山間地域等の活性化を図る。 また、花巻地域と周辺市町村の観光や食などの地域資源と併せて、県産ワインの魅力をもっとPRすることで、ワイン産地としての認定度向上を図る。</p> <p>(具体的な取組) ・新農業人フェアへの参加(大迫の新規ぶどう栽培者の募集に関するPR活動) ・葡萄酒が丘農業研究所が開講しているぶどうに興味のある方を対象とした「ぶどう塾」の塾生への実技や座学の指導 ・関係機関で組織する就農支援コーディネーターによる就農までに必要な農地の斡旋や定住支援</p>	<ul style="list-style-type: none"> ◆担い手育成支援事業 ①新規就農者に対する技術指導等を行う就農者技術支援員の配置 1名 ②ぶどう栽培の継続が困難な園地の一時的な管理補助 3戸 643,075円 ③大迫ぶどう産地振興協議会への補助 1,470,000円 ④老朽化した醸造用ぶどう垣根施設等の小規模改修補助 2,011,317円 	6,170,180	指標①								(県の指標であるため評価せず)			
指標②																	
指標③	花巻市のぶどう栽培面積	0	3.3	ha	R3.3.31	0	0%	c	B	本指標は醸造用ぶどうの新規栽培面積であり、H29、H30、R2は栽培面積が増加したが、R1は栽培規模拡大を計画する農業者において、農地を新規に取得する予定であったものの、垣根施設の新設に要する費用が計画より過大となり、自己資金の不足が生じたことから規模拡大を断念したため、目標値を下回った。 新農業人フェアに参加し、大迫の新規ぶどう栽培者の募集について広くPR活動を行うとともに、ぶどうに興味のある方を対象として葡萄酒が丘農業研究所が開講した「ぶどう塾」の塾生に対し実技や座学の指導を行ったことにより、新規のぶどう栽培希望者が増加した。その希望者に対し関係機関で組織する就農支援コーディネーターにより、就農までに必要な農地の斡旋や定住支援を行ったことにより、目標値を達成した。	(成果) ・新規ぶどう栽培就農者に対するぶどう栽培技術の指導から、園地の取得・借用に至るまで人的及び資金面での支援を継続実施したことにより、新規ぶどう栽培就農者が着実に増加している。 (今後の方向性) ・新規ぶどう栽培就農者については、継続して新規ぶどう栽培就農者の獲得を図る事業を継続実施する。 ・就農支援コーディネーターが農地情報を詳細に把握し、新規ぶどう栽培希望者に対する農地の斡旋に要する初期投資費用に対する補助事業を継続し、負担の軽減を図る。 ・高齢化等によりぶどう栽培の継続が困難な園地を廃園させることなく、新規ぶどう栽培希望者等に継承するなどし、既存園地を減少させないよう、今後も引き続きワイン産業を核とした中山間地域等の活性化を図る。	大迫総合支所地域振興課					
指標④	花巻市の新規ぶどう栽培就農者数	0	2	人	R3.3.31	2	100%	a									

資料3 地方創生推進交付金実施状況報告書(令和元年度)

No.	①交付金の種類	②交付対象事業の名称	③事業内容	④R1事業実績	⑤R1実績額(円)	⑥本事業における重要業績評価指標(KPI)					⑦R1実績値	達成率(自動入力)	判定(自動入力)	⑧達成度	⑨実績値に対する評価(達成・未達成要因)	⑩事業の評価	担当課	
						指標	指標値	目標値	単位	目標年月								
3	加速化	広域観光推進事業(観光課)	<p>(背景)</p> <p>・「宿泊」は地方の観光収入において約3割から4割を占める大きな収入源となっている。</p> <p>・花巻市内の宿泊にかかる客室稼働率は閑散期50%、繁忙期は85%となり、収益悪化の原因となっている。</p> <p>(事業概要)</p> <p>・旅館、農家、医療法人、ツーリズム系NPOなどの体験型事業者と旅行代理店による民間コンソーシアムにより地域アクティビティを整備し、地方観光を強化する。花巻のみでは限界が生じるため、遠野市、平泉町との広域連携を進める。</p> <p>・広域的なインバウンドの対応や、DMO化を見据えたFS調査(新規事業やプロジェクトの実現可能性、実行可能性等を検証する調査。Feasibility Studyの略。)を行う。</p> <p>(具体的な取組)</p> <p>(1)①-③の事業実施に係る補助金交付</p> <p>①新たに体験型事業を実施する事業者が、旅行者、宿泊客、市民が体験したくなる興味深い体験型事業を開発・改良するための事業</p> <p>②宿泊客が気軽に予約できるアクティビティと客を結ぶ予約システムの開発</p> <p>③外国人モニター等を活用し、海外個人旅行者に対応する体験型事業の調査、評価のための事業、海外へ観光情報を発信するための事業</p> <p>(2)(1)を軸としたDMO・インバウンド広域体制のFS調査</p>	<p>○体験型事業の新規開発するための費用補助金 1件 189,893円</p> <p>工房内及び市内各所に出向き実施している「手びねり作陶体験」に加え、新たに「ろくろ体験」を行える体制を整えた。</p> <p>○海外個人旅行者に対応したモニターツアー費用補助金 1件 200,000円</p> <p>わんこそば体験や和紙政策体験、さき織り体験、懐石料理体験などのモニターとして、食通が集うMIC等「本物を求めるビジネス外国人」をターゲットに欧・米・豪の外国人にモニターをしてもらい、体験型観光の評価及び調査を実施。</p>	389,893	指標①	当該体験型事業への総参加客数(単年)	0	2,500	人	R2.3.31	6,521	261%	a	B	夏休み期間中のショッピングセンターでの開催により、多くの体験型事業参加者を獲得できたこと、これまでに開発されてきた体験型事業の数が増えたことから、目標を上回った。	<p>(成果)</p> <p>・本事業の実施により、18の体験型観光メニューが開発され、当市への誘客コンテンツとして有効であることが実証されたほか、事業者における新規事業を展開する一助とすることができた。</p> <p>・コロナ後のインバウンド客に対する事業展開について、モニターツアーにより、よりインバウンド客に訴求力の高い観光プランや体験メニューの構築についてのデータ採取を行うことができた。</p> <p>(今後の方向性)</p> <p>・体験型観光メニューへの参加による誘客を拡大する観点から、引き続き体験型観光メニューの開発・改良の補助事業を行う。</p> <p>・モニターツアーで評価の高かったさき織りや和紙の制作体験等についての動画作成等に取り組み、新型コロナウイルス感染症の終息後におけるインバウンド客の増加時に、旅行先として花巻市を選択してもらうためのPR活動を展開する。</p>	観光課
指標②	体験型事業数(累計)	0	20	事業	R2.3.31	18	90%	b	市ホームページによる事業の周知及び観光協会ホームページにおける体験型観光事業の紹介等により、事業開発の意欲醸成を図ったが、アプローチした事業者において、補助事業による自己負担が難しく、開発に至らなかったなどの理由により、目標値は未達成となった。									
指標③	連携自治体数(累計)	0	6	自治体	R2.3.31	3	50%	c	開発したサイトに対する体験型事業を実施する事業者の登録について、手数料が発生することなどから、登録が進まなかったこと、本サイトの開発後に、大手旅行サイトにおける同様のサイトが後発で構築され、サイト利用者が後発のサイトを利用する流れとなったため、開発したサイトの更新や利用が停滞し、目標値は未達成となった。									
4	拠点整備	新しい人の流れをつくる拠点賃貸工場整備事業(商工労政課)	<p>起業化支援センターや岩手大学生産技術研究センター(花巻サテライト)と連携しながら、市内企業及び誘致企業が新事業進出、海外進出への支援や新商品開発による付加価値増進など、海外の低価格製品に負けない企業競争力を維持しながら、マーケティング支援による販路拡大など、企業の稼ぐ力を高めながら、新規事業展開するため、開発スペースや緊急増産用スペースとして地域企業がシェアできる賃貸工場を建設し、市や起業化支援センターによるマッチングを進めていくもの。</p> <p>賃貸工場150坪 月額使用料252,000/月</p>	(H29施設整備済) 軽量鉄骨造平屋610.42㎡の工場1棟を建設(J棟) 事業費:168,000,269円		指標①	市内製造業の粗付加価値額(百万円)	77,207	84,927	百万円	R2.3.31	90,526	107%	a	D	飲料・たばこ・飼料製造業のうち、飲料製造業を営む市内企業の事業拡大が進み、昨年度比約17,000百万円の粗付加価値額が増加したため。	<p>(成果)</p> <p>本事業により整備した賃貸工場には、令和元年度に板金加工を営む市内製造業者が入居し、今後の事業規模拡大に向けた作業工程の改善や効率化に取り組んでいる。</p> <p>(今後の方向性)</p> <p>入居企業においては、現在の社屋が手狭だが、社屋の増築や夜間の稼働が難しい立地であり、受注可能な案件に限られるため、用地取得や工場希望の拡大について、検討を要する状況にある。</p> <p>そのため、賃貸工場を活用し、作業工程の見直しや作業効率化の研究を進めつつ、現在の社屋と賃貸工場の2か所の稼働により対応可能な案件の受注することで、この稼働体制下における業績を見ながら、今後の展開を検討する状況にある。</p> <p>計画年度内における、賃貸工場入居企業による新商品開発や新事業進出及びこれに伴う雇用の増加には至らなかったものの、賃貸工場を活用し、今後の事業展開の方針を固めることにより、新たな加工技術の開発や新事業への参入が進む可能性があることから、入居企業が必要とする支援を行う。</p>	商工労政課
指標②	新規事業雇用者数(人)	0	20	人	R2.3.31	0	0%	c	賃貸工場の入居により実施する研究が「工程改善及び作業の効率化」であり、それらを図ることで生み出される新規事業及び新規雇用までには至らなかったため。									
指標③	新商品開発、新事業進出件数(件)	0	1	件	R2.3.31	0	0%	c	賃貸工場入居時の研究テーマが「工程改善及び作業の効率化」であり、それらを図ることで生み出される新商品開発や新事業進出に直結する研究内容までには至らなかったため。									
5	拠点整備	オリンピックレガシーを生かした「田瀬湖ポート場」環境整備事業(スポーツ振興課)	<p>(背景)</p> <p>・2020年の東京オリンピック日本代表の事前合宿地として内定している。</p> <p>・毎年大学や高校等の合宿地として活用されているが、宿泊施設までの距離が遠く、合宿地としての利用が伸び悩んでいる。</p> <p>(事業概要)</p> <p>ヨットやカヌーなど市民のウォータースポーツに触れ合う場の創出のため、東和B&G海洋センター及び田瀬湖ポート場の管理運営を行う。</p> <p>(具体的な取組:H29に事業完了)</p> <p>(1) 建築基準法及び消防法上の用途変更(簡易宿泊所)に伴う改修</p> <p>(2) 合宿所として機能向上に係る改修</p> <p>① エアコン設置</p> <p>② 畳の表替え</p> <p>③ タイルカーペット敷き</p> <p>④ 浴室設置</p> <p>⑤ ガス給湯設備設置(既存重油ボイラー廃棄)</p> <p>⑥ トイレ洋式化</p> <p>⑦ 洗濯室設置(既存ボイラー室のボイラーを撤去し、洗濯室化)</p> <p>⑧ 取り付け道路アスファルト舗装</p>	H29.5 事業開始 H30.3 事業完了		指標①	観光客入込数(万人)	217.7	218.4	万人	R4.3.31	211.8	97%	b	B	花巻まつりの来場者数やインバウンド観光客が増加し、昨年度(201.3万人)より、10.5万人の入込数増となっているが、目標値に届くまでの伸びとはならなかった。	<p>(成果)</p> <p>合宿ができる施設への改修により、合宿環境が整い、より快適な環境でポート合宿が可能となり、合宿利用が増加した。</p> <p>また、日本代表の夏季強化合宿地として、継続的な誘致が図られたことなど、事業の目的が達成できた。</p> <p>(今後の方向性)</p> <p>日本代表による合宿は今後も継続実施が見込まれることを背景に、「日本代表の合宿地」として、他のポート競技チームへの波及効果を狙った誘致活動を継続実施していく。</p>	スポーツ振興課
指標②	東和B&G海洋センター利用者数(人)	8,800	9,100	人	R4.3.31	9,588	105%	a	合宿所への改修により、高校、大学等の合宿が増加し、日本代表の合宿が継続されたことなどが要因に挙げられる。(大学合宿新規1団体、日本代表合宿)									
指標③	施設利用収入(千円)	400	500	千円	R4.3.31	818	164%	a	合宿所への改修により、高校、大学等の合宿数の増加、合宿期間(宿泊日数)の増加により、目標値を上回った。									

資料3 地方創生推進交付金実施状況報告書(令和元年度)

No.	① 交付金の種類	② 交付対象事業の名称	③ 事業内容	④R1事業実績	⑤R1実績額(円)	⑥ 本事業における重要業績評価指標(KPI)					⑦R1 実績値	達成率 (自動 入力)	判定 (自動 入力)	⑧達成度	⑨実績値に対する評価 (達成・未達成要因)	⑩事業の評価	担当課
						指標	指標値	目標値	単位	目標年月							
6	拠点整備	イーハトーブの四季を彩る「宮沢賢治 童話村野外ステージ」整備事業 (賢治まちづくり課)	<p>(背景)</p> <ul style="list-style-type: none"> 宮沢賢治童話村の施設の一部である「野外ステージ」は6,000㎡の芝生広場に面し、周りを森林に囲まれ自然を体感できる場所であり、宮沢賢治関連イベントをはじめとする各種イベントで利用されている。 大規模イベント開催時には、仮設ステージの設置が必須となり、開催経費が増大するため、開催地として選択されにくい。 <p>(事業概要) 野外ステージの改修</p> <p>(具体的な取組: H29に事業完了)</p> <p>野外ステージを、荒天時の緊急退避場所として活用したり、屋根への音響設備の設置、大型スクリーンの設置が可能となるように改修する。</p>	H29.11 事業開始 H30.3 事業完了 野外ステージの概要 所 在 宮沢賢治童話村 (花巻市高松第26地割地内) 構 造 鉄骨造 新設鉄骨柱4本、アルミたて樋付 屋 根 アーチ型 長尺ガルバリウムカラー鉄板葺き 軒 裏 ステンレス加工張(1.5mm) 軒 高 7.4m(建物最高点9.3m) 延床面積 98㎡ 床 材 質 木材(キシラデコール塗り仕上げ)		指標①	イーハトーブフェスティバル来場者数(人/日)	2,100	2,200	人/日	R4.3.31	2,400	109%	a	野外ステージの改修によるイベント内容の充実とイベントの定着化が相まって、1日あたりの来場者数が過去最高となった昨年度の数値(2,450人/1日)をほぼ維持することができた。	(成果) ・ステージ運営がしやすくなったことによって、民間イベントでも活用されるようになった。 ・宮沢賢治童話村は、コロナウイルス感染拡大防止のために令和2年3月2日から閉村したにも関わらず、来場者数が前年度より約12.3%増加しており、観光客入込数を増加させることに貢献した。	賢治まちづくり課
						指標②	観光客入込数(万人)	222	222.1	万人	R4.3.31	211.8	95%	b	花巻まつりの来場者数やインバウンド観光客が増加し、昨年度(201.3万人)より、10.5万人の入込数増となっているが、目標値に届くまでの伸びとはならなかった		